

令和4年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：逢坂 弥（おおさか わたる）

■担当地区等：高千地区

■活動開始日：令和2年5月1日

■自己紹介：新潟市出身 令和5年4月30日で3年の任期を満了し退任いたします



■令和4年度の主な活動

・たかちもんて会活動



たかちもんて会の草刈りや田植え手伝い、四季の便りの発送拡販、素潜りで四季の便り発送用のもずくサザエ採取や、養殖ワカメ作業の手伝いなど実施

その他、ふるさと納税返礼品高千産コシヒカリ『たかち美人』の拡販発送手伝い等

・高千新商品開発活動



高千漁業集落にて砂抜きのための畜養時に地元産のキャベツを与えて育てた『キャベツサザエ』を商品として販売開始

ロゴの企画、デザイナーへの依頼・打ち合わせ、チラシの作成やサザエの畜養・発送などを実施

・高千漁港活動



高千漁港にて漁師さんの手伝い

高齢化・過疎化に伴う漁師の減少・人手不足のため、冬季の板曳漁や季節によってイカ・マグロ・ブリ釣りなどの手伝い

高千漁港の出荷手伝いや船上架施設の操作など

令和4年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

- 隊員名:五百川将(いおかわたすく)
- 担当地区等:放課後活動支援等担当
- 活動開始日:令和2年12月1日
- 自己紹介:新潟県五泉市出身。佐渡に来る前はJICA海外協力隊として南アジアにあるブータンで保健体育の教員として現地の小中学校に勤務していました。子どもたちの将来の選択肢を1つでも多く持ってもらえることを目標に活動しています。



■令和4年度の主な活動



放課後子ども教室、土曜学習

島内の小中学校で、放課後の時間を活用して子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを地域、学校と共に行っています。各教室で地域の方や地元の高校生から参画してもらい活動を実施しています。それぞれの教室で、子どもたちが楽しく様々な体験に取り組むことができました。また、元教員や指導経験のある皆様に協力していただき中学生向けの土曜学習も新たに始まりました。佐渡の子どもたちが、多様な体験活動や学習支援を通して、佐渡の魅力的な「人」と出会える機会や交流できる時間を来年度も創っていきます。



創るプロジェクト(探究活動)

佐渡の中高生の、探究活動の支援/伴走を実施しました。中高生の“なぜ？”や“ワクワク”から「気軽に高校生が立ち寄れる居場所がほしい」や「どうして、交流することは必要なのか？」といったテーマや問いを設定し、彼らが実際に社会や地域へ出てアクションすることをサポートしてきました。先日の3月21日に開催した発表会では、島内の大人や事業所、学校関係者の皆様に参加していただき中高生が1年間取り組んできたことを報告しました。中高生らしい視点や活動を行ってみたいの新たな気づき、発見を堂々と発表していました。佐渡の中高生が地域や社会の課題に取り組むことで、社会の一員とすることができる場や環境づくりに取り組んでいきたいと思っています。



出前講座

佐渡の小学校、中学校、高校での出前講座を実施しました。キャリア教育や国際理解教育を中心に講座を行っています。自身が歩んできたキャリアについてや小中学生、高校生の頃に考えてきたことや取り組んできたことを伝えています。また、課題解決型職場体験の事業所向けの研修会では、事例発表で活動や取り組みについて話をさせていただきました。

【スケジュール】

2024年度前半	2024年度後半	2025年度前半
7/10(水) 佐和田町	9/10(水) 佐和田町	10/10(水) 佐和田町
7/11(木) 佐和田町	9/11(木) 佐和田町	10/11(木) 佐和田町
7/12(金) 佐和田町	9/12(金) 佐和田町	10/12(金) 佐和田町
7/13(土) 佐和田町	9/13(土) 佐和田町	10/13(土) 佐和田町
7/14(日) 佐和田町	9/14(日) 佐和田町	10/14(日) 佐和田町
7/15(月) 佐和田町	9/15(月) 佐和田町	10/15(月) 佐和田町
7/16(火) 佐和田町	9/16(火) 佐和田町	10/16(火) 佐和田町
7/17(水) 佐和田町	9/17(水) 佐和田町	10/17(水) 佐和田町
7/18(木) 佐和田町	9/18(木) 佐和田町	10/18(木) 佐和田町
7/19(金) 佐和田町	9/19(金) 佐和田町	10/19(金) 佐和田町
7/20(土) 佐和田町	9/20(土) 佐和田町	10/20(土) 佐和田町
7/21(日) 佐和田町	9/21(日) 佐和田町	10/21(日) 佐和田町
7/22(月) 佐和田町	9/22(月) 佐和田町	10/22(月) 佐和田町
7/23(火) 佐和田町	9/23(火) 佐和田町	10/23(火) 佐和田町
7/24(水) 佐和田町	9/24(水) 佐和田町	10/24(水) 佐和田町
7/25(木) 佐和田町	9/25(木) 佐和田町	10/25(木) 佐和田町
7/26(金) 佐和田町	9/26(金) 佐和田町	10/26(金) 佐和田町
7/27(土) 佐和田町	9/27(土) 佐和田町	10/27(土) 佐和田町
7/28(日) 佐和田町	9/28(日) 佐和田町	10/28(日) 佐和田町
7/29(月) 佐和田町	9/29(月) 佐和田町	10/29(月) 佐和田町
7/30(火) 佐和田町	9/30(火) 佐和田町	10/30(火) 佐和田町
7/31(水) 佐和田町	10/1(水) 佐和田町	10/31(水) 佐和田町

【参加申し込み】

参加申し込みは、佐和田町立佐和田小学校、佐和田町立佐和田中学校、佐和田町立佐和田高等学校の各教務主任先生へお申し込みください。

お申し込みの締切は、2024年9月10日(水)です。

お申し込みの連絡先は、佐和田町立佐和田小学校 教務主任 佐和田 伸一先生、佐和田町立佐和田中学校 教務主任 佐和田 伸一先生、佐和田町立佐和田高等学校 教務主任 佐和田 伸一先生です。

お申し込みの連絡先は、佐和田町立佐和田小学校 教務主任 佐和田 伸一先生、佐和田町立佐和田中学校 教務主任 佐和田 伸一先生、佐和田町立佐和田高等学校 教務主任 佐和田 伸一先生です。

佐渡の小学生向けの英語キャンペーン

日本学生協会基金の皆さんと共に、佐渡の小学生向けに英語キャンペーンを実施しました。英語キャンペーンとは、英語に対する興味を持ってもらい、より広い世界へ目を向けてもらうことを目的として東京及び東京近郊の大学生が中心となって行っている活動です。参加した小学生は、アクティビティを通して英語に親しむだけでなく大学生との思い出を作ることができました。

令和4年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：奥野 航（おくのわたる）

■担当地区等：小木町地区

■活動開始日：令和3年2月1日

■自己紹介：離島好きが高じて佐渡にやってきました。しかし、目の前に海があるとかえって足を運ばなくなるものですね。海からの恵みは美味しくいただいています。春はサクラマスが美味！



■令和4年度の主な活動

小木町地区の“重要伝統的建造物群保存地区”（以下、重伝建地区）選定に向けた活動が中心です。おぎ町並み保存推進委員会の事務局として、佐渡市による町並みの調査や住民への説明をサポートしています。



①戸別訪問による取り組みの説明

重伝建地区に選定されると、建物の修理・修景に補助が受けられたり、固定資産税が減免されたりといったメリットがあります。一方で、新築や改修、取り壊しには佐渡市による許可が必要となります。そのため、丁寧な説明を繰り返していく必要があります。予定していた日程が大雪で延期になるなど苦労しましたが、概ね好意的に受け止めていただきました。



②広報誌の発行

活動を広く知ってもらうため、広報誌を年3回ほど発行し、小木地区内に配布しています。前述の戸別訪問の際には、広報誌によって取り組みを知ったという方が多くいらっしゃいました。町並みの学習に取り組む小学生の様子を紹介するなどして興味を持ってもらえるよう工夫しています。



③グッズの販売

資金確保のためにサコッシュとガイドブックを作成し、販売しました。全25か所の見どころを文章と写真で余すことなく伝えています。これを片手に町を歩けば小木通になること請け合いです。製作にはかなりの時間を要しましたが、予想以上の売れ行きで多くの方に小木の魅力を伝えることができました。

令和4年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告



■隊員名：小森 美紗（こもり みさ）

■担当地区等：新穂潟上地区

■活動開始日：令和3年4月1日

■自己紹介：

京都府京丹後市、佐渡の自然や食、鬼太鼓などの文化の豊かさに惹かれてやってきました。佐渡で暮らす毎日が楽しいです。

■令和4年度の主な活動

1 多世代交流拠点づくり

（１）「たまりば・子ども未来舎りぜむ」開設に向けての準備



2022年の2月に日本財団の「子ども第三の居場所づくり事業・コミュニティモデル」への採択が決まりました。

地域の人たちと、子どもの居場所としての実績はないけれど、ダメ元で申請してみよう！ダメならあきらめずにまた来年申請しよう！という気持ちで申請した結果、見事採択されたのです。一般社団法人潟上未来会議メンバーをはじめとし、佐渡市さま、子ども関係の事業をされている協力者さまなど、いろんな方々の熱い気持ちが日本財団の職員さんたちの心を動かしたのかなと感じました。



◎取り組み内容：

- ・子ども未来舎オープンに向けての研修受講（子どもとの関係性づくり、広報など）
- ・メンバーでの定例ミーティング（ほぼ毎週）
- ・広報活動（りぜむチラシ、ロゴ、Instagramなど）
- ・古民家「りぜむ」の片づけ、改修の際の漆喰塗りワークショップ、床板への塗料塗りワークショップなどの開催
- ・オープンに向けての準備（掃除、地域での炊き出しを兼ねたりぜむオープン記念芋煮会開催、備品購入など）
- ・石巻市の子どもの体験施設「モリウミナス」の視察、ボランティアスタッフ
- ・京丹後市の高校生の居場所「Roots」視察

（２）子ども未来舎オープン（2023 年 1 月 16 日）、開設記念シンポジウムの開催

年が明けてすぐの、1 月 16 日月曜日。子ども未来舎りぜむは、平日にひっそり（？）とオープン予定でしたが、うれしいびっくりで初日の朝から弁当持参の子どもたちがやってきてくれたり、見学者の人たちがひっきりなしに訪れてくれました。

最初はみなさん、「どんなところなのかな？」と少し遠慮がちに訪ねてくださる印象でしたが、約 3 か月ほど経った現在は、学校帰りの子どもたちと「おかえりー」「ただいまー」というような関係性が生まれています。今では顔なじみの子どもたちが家の中や外を走り回り、目一杯遊んでいる様子が日常の光景になりました。

◎子ども未来舎 開所式・開設記念シンポジウム ・開所式



子ども未来舎は子ども中心の居場所なので、試しに子ども主体の開所式をやってみよう！と子どもと大人で準備を始めました。子どもたちは、くす玉づくりから、当日の司会進行、やりたいことの発表、くす玉割りなど、いろいろと活躍してくれ、大盛り上がり。お菓子まきも行いました。日本財団さんからも「参加した開所式の中で一番盛り上がっていた。」とコメントいただきました。子どもと大人で合計 50 人ほどの方の参加があり、熱気に包まれていました。

・開設記念シンポジウム



講師に武田信子先生をお招きし、「佐渡の大人の価値観は？」をテーマにご講演いただきました。近くの席の人と子どもの頃の思い出を話し合ってみる時間があったり、それぞれの思いや考えをシェアする時間などもあり、充実した内容でした。約 40 人ほどの方が参加してくださいました。

（３）日々の運営について

「たまりば・子ども未来舎りぜむ」のオープン日は、毎週月曜日、水曜日、金曜日、土曜日です。平日は朝の８時から１７時まで。土曜日は１０時から１６時までオープンしており、基本的に２、３人以上の大人が居ます。（地域の人を中心に、佐渡内外の常勤・非常勤スタッフ、ボランティアスタッフなど）春休みを活用して、りぜむに長期滞在してくれた大学生や島内出身の大学生などもスタッフとして活躍してくれました。視察なども多く、すでに島内外の方との交流が始まっています。



・りぜむの考え方

なるべく禁止事項はなく、自由に思いっきり遊んで欲しい！と考えているのですが、大人はついついよかれと思って、「危ない」と子どもを止めてしまうことがあります。ある子どもの「危ないって言われたくない！自由じゃない！」という言葉をきっかけに、子どもと大人、みんなでお話してみようという「みんなの会議」が始まりました。

最近は、「おやつを食べたいけど、どうする？」というような話し合いから、子どもたちでイベント出店とかしてみようか？というような話も生まれつつあります。

まだまだ信頼関係や場としてのそれぞれの責任感のようなものが足りず、うまく話し合いができないこともあります。何かがあった時に、それぞれが安心安全な状態で素直に心を開いて話せる場所でありたいと思います。

・りぜむならではの体験

月曜日のおやつづくりや土曜日のお昼ごはんづくり、イベントなど、子どもたちのやりたい声を拾ったり、スタッフで知恵を出し合って、いろいろな催しを行っています。

薪を使った竈（かまど）でのごはん炊きやお魚を捌くところから料理すること、地域講師を呼んでの郷土料理教室など、りぜむならではの学びの時間が生まれています。



・運営に関する悩み

りぜむの広場をプレーパークのようにすこし危険なことでも大人が見守りながらチャレンジできる場にしたいけれど、どのように見守ったらいいのだろうか？そんな悩みから、羽根木プレーパークと川崎子ども夢パークに視察に行ってきました。そうした学びを生かして、木工などのものづくりや焚火など、多様な体験ができる場づくりを進めたいです。

2 潟上及び生椿での稲作、ビオトープづくり体験、田んぼの生きもの調べなど

◎昨年度に引き続き、大学生と米の自然栽培

今年度は、ハットンを使っての手植えを新たに行いました。草刈りや水路堀り、カルチベーターを使っての除草などすこし慣れてきたかも？などと言いつつ、やはり苦労しながらもなんとか収穫を終えました。

◎急遽、生椿の稲作も！

高野毅さんが体調を崩されて、あわや生椿の美しい棚田の風景が途切れてしまう！？というような状況が生まれました。これまでボランティアとして通っていた面々が集まり、主に4人ほどのメンバーが主体となり、生椿の稲作を行うことになりました。

畔切り、畔塗り、水路の確保、田おこし、ごろ引き（丸太の棒を引いて田をならす）、田植え、草刈り（何度も）、除草、生椿に通っての水管理、稲刈りまで。普通の慣行農法での米づくりでは体験しないような生椿ならではの昔ながらの作業もさせてもらい、大変だけれど刺激的な日々でした。また、生椿の空気の心地よさで疲れていてもなんだか癒される感じがあるので不思議でした。

田植えと稲刈りはイベント化して、炊き出しをしながら行ったのですが、いずれも島内外から20人以上が参加してくれ、生椿に親しんでいただける人が増えてきている印象です。



3 コミュニティビジネスづくり、ローカルベンチャーラボでの学び

りぜむに関する日本財団の助成金（運営費など）は、3年間しか出ないため、3年後に向けて地域でビジネスを作って、運営を続けていけるようにしよう！という意気込みで取り組んでいます。

◎「元気な地域づくり事業」の活用

地域の人たちとコミュニティビジネスづくりを学び、地域で何ができるか考えるために、「元気な地域づくり事業」を活用して、株式会社ミテモさんからコミュニティビジネスづくりに関する講座を4回ご実施いただきました。

・遠野視察

上記事業の中で、地域資源の活用事例として、地域柄が佐渡にも似ている遠野市の富川岳さんの取り組みを学びに行きました。「遠野物語」を活用した観光ツアーづくり（物語を学んだ上で地域をフィールドワーク。怪談師さんによる現地での音読つき。）や郷土芸能（鹿踊り）を活用した観光ツアーづくりなどについてのお話をお伺いしてきました。



・潟上でのフィールドワーク

その結果、富川さんに佐渡に来ていただき、どんなことができそうかフィールドワークをすることに。佐渡の新穂潟上周辺をフィールドワークし、地域資源についてみんなで話し合った結果、①トキ博士になろう！、②シン・のろま人形劇づくり、③トキの動きで創作ダンス、④りぜむの遊び場をみんなで整備する（ゆくゆくは訪問者がキャンプなどもできるといいな）というような取り組みを実践し、3年ほどかけて、体験プログラムとして作り上げてみようという話になっています。

◎ローカルベンチャーラボへの参加

地域での起業について経験者から学ぼうと「ローカルベンチャーラボ」に参加しました。事業案としては具体的になりませんでした。自分事として事業をつくっていくことの大切さ、デザインの大切さ（見せ方、伝え方が重要）、トライアンドエラーを繰り返すことの大切さを学びました。子どもの居場所関係の取り組みをしている県外参加者の繋がりも生まれ、三か所の居場所でオンラインでミーティングすることもできました。

4 潟上集落での取り組み

・潟上未来会議

だいたい年1回のペースで実施しています。

未来会議の運営ミーティングで話し合いについての準備を重ね、今年度は2月19日に子ども未来舎りぜむにて行いました。



当日は、（一社）潟上未来会議の子ども未来舎りぜむの取り組みの経緯や、コミュニティビジネスづくりの事業についてのお話をしたあと、みんなで昼食のおこわ、豚汁を食べて和やかな時間を過ごしました。

そのあと、「子ども未来舎りぜむ」「コミュニティビジネスづくり」「安心安全な地域づくり」についての3つのテーマで話し合い、主に以下のような話で盛り上がっていました。また、実現に向けて、運営ミーティングを定期的実施していくことになりました。来年度では集落でいろんな取り組みが実現するようにサポートしていきたいです。

- ①りぜむ・・・動物を飼う、自転車小屋を建てる、広場のマップをつくりいろんなことを実現していく
- ②コミュニティビジネスづくり・・・食べ物の加工とりぜむでの販売、スナックりぜむ、体験ツアーづくり
- ③安心安全な地域づくり・・・冷蔵庫に連絡先や大事な情報が記載されたカプセルを入れる取り組み、草む

しりや雪かきが大変（若者との繋がりが欲しい）、非常時のための備蓄、班ごとに連絡先をわかりやすく整理したりリストをつくる

・潟上ときどき新聞の発行

昨年度に続き、潟上未来会議やわたし自身が集落でどんな活動を行っているかをお知らせするために、二月に一回程度のペースで新聞を発行しました。

やはり、集落にはネットを見られていない方が多いため、紙媒体でお知らせすることは大事なことだなと感じています。

今年の2月からは毎月「りぜむしんぶん」を発行し、りぜむでどんなことが起こっているのかをお知らせしています。いろいろ発行しすぎて、ときどき新聞はお休み中ですが、また、私の取り組みや考えなどを発信してみようかなと思います。



令和 4 年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告



■隊員名：菊池 猛

■担当地区等：宿根木地区

■活動開始日：令和 3 年 4 月 1 日

■自己紹介：東京都東村山出身、S52. 10生まれフランス料理歴 25 年。父の生まれ故郷である佐渡島で独立を目指して活動中です。川崎では料理を通じた地域活動をしていました、その経験を活かしこれからも頑張ります！

■令和 3 年度の主な活動

○お試し住宅の整備



一昨年度から続けてきたお試し住宅の整備がひと段落付き、活用スタートの準備段階へと今年度は移りました。来年度の活用に向け着々と準備を進めてきました。

○地域資源を生かした商品開発&体験観光

一昨年から続けてきた沢崎ののり体験についての実績が少しずつ積み上がりました。

返礼品としての販売数 20 セット計 200 枚。

個人販売 3 枚入り×90 セット

海苔体験ツアー2 回開催。参加者計 28 名

協力団体も徐々に増え始め次年度は観光、地域探求

などでカリキュラムとして必要とする教育部門とも連携を図りたい。



宿根木・沢崎の岩のりで作る、判のり体験



ゆきちからを使ったシュトーレン
とパン

昨年出来上がった宿根木産小麦が約800kg
その販売促進としてパン屋・ピザの
販売をイベントなどでしました。



中間就労支援

チャレンジカフェの開催は8回。
ジオ食認定のシュークリーム販売数も1200個以上
原材料費を除く売り上げは、障がい者の方にすべて
分配してます。
チャレンジカフェに参加するメンバーも累計20名
(複数参加者はカウント無し)に増えました。
メニュー内容も増え、ピザづくりも技術習得しました

チャレンジカフェで作るジオスイーツ

○食育活動・こどもレストラン

昨年の子どもレストランは4回開催。
子どもの参加数は1回につき12名以上。
子ども食堂という切り取られたサービスでは
提供されない価値。子どもの社会体験を通し、
コミュニケーションの向上・チームワーク(助け合い)
・アイデアの採用による主体性の爆発・成功体験の
積み重ねの中で、信じられないほどの子供たちの
成長を目の当たりにした。



令和4年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：江龍田 崇大

■担当地区等：ふるさと納税推進(佐渡市地域づくり課)

■活動開始日：令和3年4月1日

■自己紹介：出身：新潟市

父親が旧両津市出身という縁から、

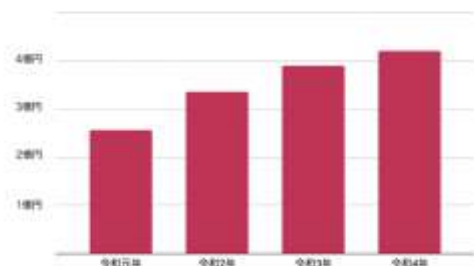
2021年3月に、妻と2人で佐渡へ移住（孫ターン）をしてきました。

■令和4年度の主な活動

ふるさと納税の現状



佐渡市：年度別寄附額



佐渡市では、平成20年度よりふるさと納税を開始しております。着任した令和2年度は3億3千万円、令和4年度は、前年度の3億9千万円をうわまわり4億円を超えるご寄附をいただいております。

佐渡市へのご支援をありがとうございます！

① 新規事業者23社・新規返礼品275点を追加しました！



昨年度に続き、新たにふるさと納税にご興味をお持ちいただいた事業者様へ、制度のご紹介にお伺いをしました。今年度は、23社の皆さまに参画をいただいております。また、既存事業者様にもご協力いただき、令和3年度より約100点多い275点の返礼品を新たにご登録いただきました。頭数が少なく幻ともいわれる佐渡牛は、返礼品ではこれまで"切り落とし"のみでした。そういった状況を新規事業者様にご理解をいただき、赤身・ヒレ・サーロインのステーキに使える部位を新たにご登録いただく等取り組みを行いました。

② 寄付者の方へ情報発信をしています！



佐渡に関心をもっていていただいている方へふるさと納税を含めた佐渡産品を知っていただけるよう、『佐渡観光ナビ』の中に「佐渡市ふるさと納税特設サイト」を7月に開設しました。

新しく登録された返礼品を新着情報で掲載したり、特集では生産者へ取材をした記事を公開しております。ブログと合わせてこちらもぜひご覧ください。また11月は、首都圏でのPRを目的に大田区ふれあい祭り、アイランダー、東武百貨店など、東京でのイベントにも行ってきました。

令和4年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■宮嶋麻生（みやじま まい） ■活動開始日：令和4年7月1日

■松ヶ崎集落 松ヶ崎街並み検討特別委員会

■自己紹介：愛知県安城市育ち（両親は新潟出身）

■佐渡に来た理由...豊かな自然・美味しい食に心奪われました！

佐渡は息子が1番気に入った場所です。伝統文化や地域に誇りを持ち、人と人との繋がりを大切にしている所が素敵です！ずっとココで子育てしたいと思う地域です。

■令和4年度の主な活動



①松ヶ崎街並み保存美化活動

・さどんぼガイド...松ヶ崎地区 屋号の里を歩きます。ガイド付きのお散歩は、昔にタイムスリップしたかのよう...（私のガイドはまだまだ修行中）

・大学生外国人ボランティア受け入れ...総勢 43人の大学生外国人の受け入れ。松ヶ崎の歴史に触れながら街並み保存美化活動を手伝っていただきました。



②空き家を子育て世帯に！

・2022～現在までに、集落内の**5軒**の空き家解消！（うち1軒は交渉中）

・2023年度現在、島留学移住者4世帯**10人のお子さん**が居住しています。みんなで遊ぶ会を企画し、家族ぐるみの交流、学校・集落の間に入って移住ファミリーのサポートをしています。ここで子育てしたい！と思える集落を目標に地域の方々と共に活動しています。

・嬉しい事に本年度も、松ヶ崎集落に**2家族6人のお子さん**が増えました！

しかし現在は、すぐ住める家がありません。移住ファミリー受け入れ体制を強化するため、①空き家ガイドブック/集落の今を伝えるお手紙作りに取り組み、集落にいない空き家持ち主さんに空き家活用に意識を向けていただく為の作業（新しい空き家活用&灯りを増やす）②移住者が孤立しない、子どもの遊び場/多世代居場所づくり（今いる住民を大切に）住民に寄り添い、ここに住み続けたいと思える取り組み企画進行中！



移住者 × 住民で松ヶ崎の海をカヤックで満喫



移住者 × 住民で祭りに向けて鬼太鼓の練習

令和 4 年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：村山 凜太郎（むらやま りんたろう）

■担当地区等：岩首地区

■活動開始日：令和 3 年 4 月 1 日

■自己紹介：新潟県十日町市出身。大学の際に佐渡市に実習で訪れて以来、佐渡の里山の魅力に惹かれ岩首昇竜棚田のある岩首地区で棚田の保全と活用に取り組んでいます。



■令和 4 年度の主な活動

【岩首昇竜棚田の保全活動】



棚田は佐渡ヶ島だけでなく全国的に農家の担い手の不足や生産性の限界など様々な問題で減少傾向にある地域資源です。岩首昇竜棚田でも同じ課題があり、棚田の存続に関わる現状になっております。そのため全体の少ない面積ではありますが、棚田の保管理などをやらせていただいております。年間を通した棚田の維持管理や田植え、稲刈りなどの棚田の業務を行いながら、棚田に訪れる方や農作業体験などの受け入れ業務を行っております。今年度は述べ 200 人以上の方に岩首で農作業体験をしていただきました。それを通じて棚田の現状や岩首昇竜棚田の魅力を知ってもらう活動を行っております。

【棚田を活用したイベント等の実施】



棚田は先程も述べたように耕作者が減少しており、棚田の減少をしております。農業としてはお米の収量が上がらず、どうしてもお米を作るだけだとは厳しい現状です。ただ

し、棚田を訪れてみるとどこか懐かしいような雰囲気になったり、その美しい景色で癒やされたりと農業だけでない魅力に溢れております。そこで棚田を全く別の切り口で関わってもらえるような取り組み行っております。現在はお米を作っていない農地を活用したヨガイベントを実施したり、その他にも苗を植える前の田んぼを活用した「どろリンピック」、棚田を活用したキャンプといったイベントの実施を行っております。農業だけではしれない棚田の魅力を来ていただいた方に参加して楽しんでもらえるような企画&運営を行っております。令和4年度は岩首昇竜棚田を舞台とした現代アートの写真撮影の受け入れ等もさせていただき、佐渡島内外を始めとした300人近くの人にご参加していただきました。

【岩首談義所を拠点とした学生及び一般消費者との交流事業】



岩首談義所は2007年に廃校になった旧岩首小学校を活用した岩首昇竜棚田や岩首の交流施設です。残念ながら、2023年3月末に閉所をしてしまい、現在は入れませんが、棚田に訪れた方を始めとした学生方々を中心に交流事業を行っておりました。令和4年度も延べ300人以上の学生等に訪れていただき、古き良き木造校舎を体感していただきました。その中で、学生らが岩首の棚田環境を維持するために棚田のルール看板の作成など様々なプロジェクトを実施しました。

令和 4 年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

- 隊員名：棚村 麗乃（たなむら れいの）
- 担当地区等：みなとオアシス佐渡両津推進担当
- 活動開始日：令和 3 年 5 月 1 日
- 自己紹介：新潟市（旧白根市）出身。色々なことに挑戦しながら雄大な自然でリフレッシュできる佐渡が大好きです。みなとオアシス佐渡両津では年 4 回のイベントを中心に企画・運営の支援をしています。令和 5 年度はそれに加え、退任後に向けた準備の 1 年にしたいです！

【みなとオアシス佐渡両津 Web サイト/SNS】



■令和 4 年度の主な活動

【8/8～8/15】
オアシス 2022
夏
ビアフェスタ



着任した令和 3 年度（2021 年）には開催が叶わなかったビアフェスタを、令和 4 年度は無事開催することが出来ました。屋外の飲食店ブースだけではなく、屋内でも多数の物販コーナーやこどもたちに向けたワークショップを実施。

1 週間のイベントともなると当日までの準備もかなり時間を要し、反省点もたくさんありましたが、この経験を活かし令和 5 年度は更なる円滑な運営ができるように念入りの計画をしてみたいです。

【10/15～
10/16】
オアシス 2022
秋
Sea 級グルメ
佐渡大会



地場産の海産物を使ったグルメの No.1 を決める『第 5 回 Sea 級グルメ 佐渡大会』を開催しました。同時開催の Fish Ranker 主催 佐渡ビッグゲームでは、芸能人や有名釣り Youtuber を招いたコーナーを設けるなどし、会場を盛り上げて頂きました。
湊木遣や鬼太鼓など、釣り大会に参加する島外の方々は初めて見る佐渡の伝承芸能を楽しまれていました。

【12/4～1/14】
オアシス 2022
冬
おんでこイルミ
ネーション

【12/4】
特別点灯式



地元有志の方々のご協力で飾り付けして頂いているイルミネーションが、前年に引き続きおんでこドームを煌びやかに彩りました。
点灯が開始された 12 月 4 日の特別点灯式には短時間の開催ながらも大勢の親子が来場され、配布のわたあめや、クリスマスカードの記入コーナーを楽しまれていました。同時開催のフォトコンテストは、令和 5 年度も開催予定。新しい企画も現在計画中です！

【3/18～3/19】
オアシス 2023
春
美食と芸能の
祭典
加茂湖牡蠣祭り



令和 3・4 年度は来場者を見ても年間を通して感染症の影響を大きく受けていたと感じていましたが、年度最後のイベントである春には 2 日間で来場者数が約 5000 人と、かなり賑わいのある 2 日間になりました。加茂湖漁協様による牡蠣のブースや、スケートボード体験場を含む子ども広場も盛り上がりしました。

【11/12～
11/13】
Sea 級グルメ全
国大会 in 八幡浜



全国に約 160 カ所ある『みなとオアシス』ですが、精力的な活動を日々行うメンバーが一堂に会する Sea 級グルメ全国大会に初めて参加させて頂きました。コロナ禍明け初めての開催ということでしたが、会場となった愛媛県八幡浜港は、フェリーターミナルの移転に伴い、魚市場やお土産館も賑わいを見せていました。

【その他活動】

移住交流課
空き家相談会



空き家相談員として勉強中！

島内に空き家のある方々の相談を通し、改めて空き家の多さを実感し、利活用や空き家バンク登録などへの道筋の認知を上げていく必要があると感じました。令和5年度も引き続き、空き家活用の勉強をしていきます。

ローカルクリエイターから学ぶ！佐渡をもっと知ってもらうためのSNS・Google・イベント活用講座



任期も2年目になり、少し余裕も出てきたので自分で初めて0からイベントの企画をする機会を頂きました。佐渡汽船3階のSADO PORT LOUNGE様に開場をお借りし、ゲストを招いてテーマに沿った講座を開催。地元のご高齢の方からも参加があったことが嬉しかったです！

令和4年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：伊藤 英敏（いとう ひでとし）

■担当地区等：金井地区

■活動開始日：令和3年7月1日

■自己紹介：佐渡市の旧金井町大和田集落の出身です。

大学入学と同時に佐渡を離れましたが、定年をきっかけに故郷である佐渡に戻りました。私は、金井地域センターにて「支所・行政サービスセンター拠点化事業」を推進する役割として活動しています。また、集落では昨年に隣組長として取り組みました。



■令和4年度の主な活動

・地域のにぎわいづくり

①「かないいいねマルシェ」の開催

金井地域づくり活動の一環として、金井地域の参加可能な各集落・町会から出店をいただき「かないいいねマルシェ」を開催しました。

- ・名称 「かないいいねマルシェ」
- ・開催日時 2022年10月15日 土曜日 11時00分～15時00分
- ・会場 金井コミュニティーセンター前駐車場
- ・概要 金井地域センター拠点化事業として金井の各地区から趣向を凝らした地域発マルシェを初開催した



「かないいいねマルシェ」のようす



当日は、天候に恵まれた秋晴れの中に多くの方々が足を運んでいただきました。飲食店、ワークショップ、展示、フリーマーケット、動物ふれあいの場など、来場者がそれぞれ思い思いに楽しんでいただいた1日となりました。また、予想以上の来客により出店者も忙しく接客いただきました。

第一回目としては、当初からの目的であった地域づくりの第一歩として目的は達成できたと思われます。

・地域が抱える課題調査

無作為に選んだ金井地区住民の方々からアンケートを元に地域の思いや課題をまとめました。また、お会いできた方々からのご意見を伺いながら、金井地域で必要な取り組みの優先順位をつけながら取り組みに活かしています。

・地域の情報発信

「かないいねマルシェ」の出店者にフォーカスして「佐渡市地域おこし協力隊ブログ」に掲載を行いました。「わら縄ない」「平清水関根農園」「SADO LAND BERR」「平清水竹とうろうづくり」「西方集落わらじづくり」などを取材し掲載させていただいています。その後も「大和田集落鬼太鼓の稽古」など取材にご協力いただいた地域の活動内容を少しずつ編集し掲載していきます。



ブログ掲載例

・金井地域センター業務の補助

マイナポイント申請サポート業務などの補助

普段は、金井地域センター地域支援係として対応すべき業務などの補助も行っています。また、今年度から金井地域センターでは、マイナポイント申請のサポート業務を担当することになりました。おかげさまで多くの方々がお越しいただき、申請手続きのサポートをおこないました。マイナポイントをもらうためにマイナンバーカードを申請する期限は2月末を持って終了いたしました。マイナポイント申請は、9月末までですのでこの後も対応してまいります。

令和4年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：丸山 良輝（まるやま 良輝）

■担当地区等：佐渡教育コンソーシアム担当

■活動開始日：令和3年12月1日

■自己紹介：長岡市(旧寺泊町)出身です。佐渡市とは以前、佐渡島内の高等学校で勤務させて頂いた縁があります。現在は高校生議会、島留学の推進等の佐渡教育コンソーシアムの業務に携わっています。



■令和4年度の主な活動

・佐渡市高校生議会



佐渡島内の高等学校・中等教育学校の生徒を対象として、「佐渡市高校生議会」を開催しました。

高校生議会を通じて、議会や選挙の仕組み、佐渡市の施策とSDGsについての関連等を学びました。高校生からは「観光政策」「商店街の活性化」「スポーツ振興」「地産地消の推進」等の政策提言がありました。

・佐渡教育コンソーシアム講演会



N I I G A T Aマイプロジェクト☆LABOの宮崎芳史実行委員長を講師に迎え、「実践型探究マイプロジェクトの始め方～地域と中高生の共創が佐渡の未来にもたらす価値～」という演題で講演頂きました。講演会では参加者とともに、マイプロジェクトのプロセスやアクションを学びに変えるリフレクションについて学びました。

・島留学の推進(新潟県立羽茂高等学校)



新潟県立羽茂高等学校での島留学に向けて「地域みらい留学」制度を活用し、オンラインでの合同学校説明会、首都圏での合同学校相談会に参加するとともに島留学希望者を対象とした個別相談会を開催しました。令和5年4月から島留学制度によって2名が島外から羽茂高等学校に入学する予定です。

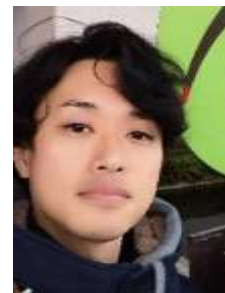
令和4年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：菅原 亮（すがわら りょう）

■担当地区等：トキの水辺づくり協議会

■活動開始日：令和4年1月1日

■自己紹介：出身は佐渡市の姉妹都市でもある東京都国分寺市で、持続可能な社会を地域の現場からつくっていきたいと思い佐渡に移住して来ました。



■令和4年度の主な活動

・トキの水辺づくり協議会に参画している各団体の活動



【トキの餌場づくり（潟上水辺の会）】

トキの餌場となるビオトープを整備するために草刈り、湿地づくり等を行い、子供たちへの環境学習を行いました。ビオトープで行える環境学習の可能性を追求したいと思います。



【生椿での活動（生椿の自然を守る会）】

トキ保護の歴史の中で重要な場所である、小佐渡の山中にある生椿でビオトープ整備や稲作をし、子どもたちへの環境学習を行いました。



【交流の活動（トキとき応援団）】

「NPO 法人きよせラボ」や「一般社団法人あいあいネット」等のトキとき応援団と協力関係の団体と交流のイベントを開催しました。交流から新たな発想や可能性が生まれることを感じています。
（写真はきよせラボのオンラインイベントの様子）

・トキの水辺づくり協議会としての活動



【役員会の開催】

毎月役員会を開催し、トキの水辺づくり協議会として資金をどう活用していくかや、トキと共生するためにどのような活動を行っていくか等を協議しています。



【本部会議の開催】

トキの水辺づくり協議会として今後何を目的として中長期的に活動を展開していくかを明確にするために全7回に渡って協議会の在り方を決めるための議論を重ね、今後の方向性を決めました。ありがたい未来と現状を重ねて検討する必要性を再認識しています。



【一斉草刈り】

協議会に参加している全団体が同時に行う「一斉草刈り」を年3回開催し、島内各地のトキの餌場となり得る場所を整備しました。

・トキの水辺づくり協議会の活動を持続化させていくための活動



【スタディツアーの実施】

旅行会社と連携し、トキとの共生を目指す活動を学ぶスタディツアーを実施しました。トキとの共生を持続可能にするために経済性を伴った仕組みづくりをお手伝いしています。



【自然学校の視察】

トキの水辺づくり協議会の拠点である「トキ交流会館」で体験プログラムを提供し協議会の活動資金を獲得するという活動を今後行うに辺り、金沢市、柏崎市、阿賀野市にある自然学校の視察に行きました。身近なもので楽しく学ぶ工夫を皆さんされています。

令和4年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：小松 恵美（こまつ めぐみ）

■担当地区等：小木地区

■活動開始日：令和4年7月1日

■自己紹介：埼玉県出身。いろいろな美味しいものがある、海も山もある。多趣味な面白い人がいる、そんな佐渡に惹かれて来ました。そこにあるものを活かすこと、ごみを出さない循環する暮らしを目指しています。捨てられる食べ物をみると泣いちゃう。（写真左が小松です）



■令和3年度の主な活動

・小木特産品開発センターで地元の農作物をPR



特産品開発センターは地産地消のため、地元の小規模農家さんの収穫物を販売することで、作り手の収入源となり、地元の方に地場産野菜をお手頃な価格で買っていただける役割を果たしています。いつやっているのか、何があるのかわからない、という声もあったので、グーグルマップの情報を更新したり、Instagramで今どんなものがあるか・地元のレシピ紹介・生産者さんの声や漁の様子をお伝えしたり、HPを新しく作り直したり、店先に黒板を出し、イラストと文章でもお野菜や小木の旬を発信しました。

・特産品開発活動



小木周辺にはとにかく多様なおいしいものがあります。ただ、時期によっては採れすぎて売れ残ったり、メイン果物の収穫と重なるために収穫されずに廃棄となる果物などもあります。そんな「フードロス」といわれる食材たちと特産品を組み合わせ、おいしいものが作れないかと試行錯誤。梅干し、梅ジャム、いちじくキングのドライフルーツ・コンポート、実割れトマトのケチャップ・ドライトマト、かぼちゃのスパイスプリン・コロッケ、赤ピーマンのサザエカレー、リンゴケーキ・アップルパイ、米粉と豆腐のカヌレ、おけさ柿の柿酢…などなど。

ただ、商品にして発送すると、どうしても包装ごみが出る、輸送に燃料が必要になってしまうという葛藤もあり、店頭で量り売りができたらいいなと考えています。

また、小木行政サービスセンターの職員の方々や宿根木の菊池隊員・小木の奥野隊員と協力して、沢崎の判のりをふるさと返礼品に新たに登録しました。パッケージデザインや「判のりの秘密」という海苔のストーリーをお伝えする紙面を担当。100組(1000枚)販売する予定が岩海苔の不漁で20組となりましたが、おかげさまで完売となりました。

・小木の名産 いももち・干し芋づくりとPR



小木といえば芋もち・干し芋。芋の苗植えから、収穫、選別、加工、パッケージ詰めまでを学ばせていただきました。ほくほくに蒸かされたお芋の甘い香りの中で作業できるのは幸せな時間。加工しやすいころんと太ったお芋を作る難しさや、お芋の品質による作業への影響も知ることができました。一緒に作業する地元のお母さんたちのお

しゃべりから、生のネイティブ佐渡弁(南佐渡)をたくさん聞いたのも大きな学びでした。ちなみに私がよく言われたのは、「びちやるこす くーとる」でした。佐渡のびちやるこすは美味しいのです。

また、芋もちアンバサダーの稲垣里帆さんから芋もちへの熱い思いを聞かせていただいたり、さいたまスーパーアリーナ前で開催されたさつまいも博に見学に行くなど、今後のお芋の活用の可能性についても模索しています。

・小木の竹細工文化の復活にむけて



小木町は昔、竹細工で栄えた町でした。ですが、今竹細工職人として技術を持っているかたは数名。そんな職人さんを訪問、作品や作業風景を見せていただき、竹製品や町の産業の変遷を聞かせていただきました。夏のあゆす会館で開かれた「こいっちゃ広場」では一柳さんを講師として竹風鈴づくり体験のお手伝いを通して、小木の子どもたちに竹細工に触れる機会をつくりました。

御用かごや竹箆をはじめとする竹製品は、現在安価なプラスチック製品にとって代わられてしまっています。ですが、いま求められている持続可

能なくらしのためには、竹ほど可能性のある素材はなかなかありません。(成長が早く、毎年収穫できる。土に還る。女性や一人でも運べる軽さ。)昨年大雪で倒れてしまい、通行止めや停電の原因と悪者にされている竹ですが、そんな竹を活かせたら、人間社会も竹林も大地にもいい循環が生まれます。私の技術はまだ竹ひごづくり止まりですが、夢は広がります。

ちなみに、たらい舟のタガと杉板をつなぐクギにも竹が使われています。竹細工の技術は、佐渡の顔でもあるたらい舟の欠かせない要素なのです。

・ 地元の食材をつかったランチ・デザートづくりワークショップ



海外からのボランティアツアー参加者を対象に、特産品開発センターの地場野菜を使って、ランチとデザートを作る体験を企画しました。海外の方にとってはなじみのない野菜や食材も一緒に調理することで、おいしさを知ってもらう機会になります。周辺の散策や町並みの勉強と組み合わせ

て、センターが大切にしている「地産地消」と小木のことを楽しく美味しく学べるワークショップを意識しました。

・ 地域活動



居住区である堂釜地区の会合や草刈り、お祭り(大平神社礼祭)の準備などを通して、地域とのつながりと理解を深めました。

また、夏には素浜海水浴場のビーチクリーン、雪解け後から家から小木港、宿根本までの道路沿いのごみ拾いをしています。観光客が増える前に

きれいにして、気持ちよく佐渡で過ごしていただきたいという思いと、ごみが捨てられている場所はポイ捨てを誘発するためその対策として、夏になって紫外線でプラごみが分解されてマイクロプラスチックとして環境に散らばるのを防ぐ、という目的があります。なにより、春の知らせをみつけながらのごみ拾いは元気をもらう時間にもなりました。

令和4年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

- 隊員名：吉田 直美（よしだ なおみ）
- 担当地区等：羽茂地区（羽茂支所地域支援係）
- 活動開始日：令和4年11月1日
- 自己紹介：岩手県出身です。羽茂支所にて「支所・行政サービスセンター拠点化推進」を担当しております。地域の皆様よりお話を伺い、継続可能な活動に繋げていきます。

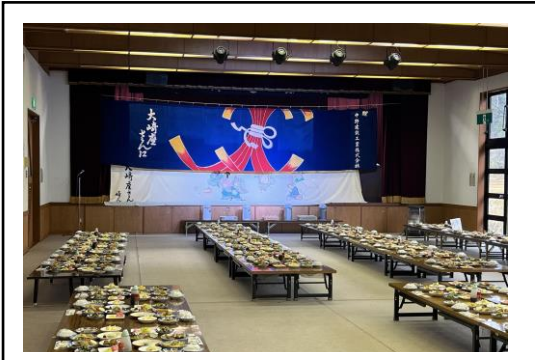


■令和4年度の主な活動

・地域を知るための活動

活動のスタートとして地域の皆様へご挨拶に伺いました。

着任時期が稲刈りからおけさ柿、ル・レクチュの収穫時期で農繁期と重なったため、落ち着いたころから保健師さん・栄養士さんと健康学習会への同行、商工会理事会にてご挨拶などさせていただきました。



12月には「大崎そばの会」へ参加し、配膳などのお手伝いをさせていただきました。島内外からたくさんのお客様をお迎えするこの会は地域有志の皆様が運営していらっしゃいます。そばの他にもたくさんのおいしい郷土料理、さまざまな芸能ステージと食べて美味しい・観て楽しい会を地域で運営していることに敬服いたしました。

・「羽茂らしさ」を知る、伝える活動

地域おこし協力隊の活動を検討するにあたり、地域有志の皆様と意見交換をする場を設けました。その中で「子供たちが羽茂らしさ・羽茂の良さを知る機会が少なくなっているのでは？」というお話をお伺いしました。

行事ごとに集落や各家庭で作られていた郷土料理も、状況の変化から実施されないことが増えたそうです。ただし途絶えてしまったわけではありません。「羽茂ならではの」に触れる機会を少しでも多く・お友達と一緒に取り組み、大人たちに教えてもらった経験を将来思い出してほしいと考え、イベントを企画しました。

・ 郷土にふれる活動

佐渡では旧暦で桃の節句をお祝いすることが多いこと、羽茂では集落やご親戚・ご家族でおこしがたを作ることを教えていただき、おこしがたづくりのイベントを開催しました。当日の講師は佐渡市健康推進協議会羽茂支部の皆様に、事前準備やサポートは地域有志の皆様に協力いただきました。



初めてのイベントということもあり、不安もありましたが参加していただいた皆様の楽しそうなお声を聞き安心いたしました。また終了後のアンケートでは「親子で参加できるもの」「何かをつくるもの」などを望む声をいただきました。

羽茂には郷土料理・行事食の他にも能などの伝統芸能、おけさ柿やル・レクチェなど特産品、朱鷺が舞い降りる田園風景、住む方々のあたたかさなど誇れるものがたくさんあると感じております。今後も地域の皆様の声を聞きながら「羽茂らしさ」を学び・伝えていきたいと考えております。

令和 4 年度佐渡市地域おこし協力隊活動報告

■隊員名：後藤 保志（ごとう やすし）

■担当地区等：両津地区

■活動開始日：令和 5 年 1 月 1 日

■自己紹介：佐渡市出身。妻と子の 3 人暮らし。

高校卒業と同時に上京し、直近では令和 4 年まで神奈川県横浜市に住んでおり、12 月に U ターンして参りました。普段は両津支所にて勤務しており、両津地区を中心に活動をしています。



■令和 4 年度の主な活動

加茂湖釣り筏（いかだ）モニター体験会



加茂湖活用事業の一環として加茂湖漁協さんに依頼し、複数人乗りの筏（いかだ）を作成していただきました。

その筏（いかだ）の活用プロジェクト第1弾
として島民の皆様
『加茂湖での釣り』を体験していただくとの
企画でモニター参加者を募集しました。

その結果、7名（満員御礼）のモニター参加者
にご参加いただきました。



加茂湖にポツンと釣り筏（いかだ）だけが浮い
ている景色は『奇妙』のひとつです（笑）
（※左に見えるのは、緊急時用のボートです。）

こんな経験はめったにできません。
（もしかして、はじめてではないでしょうか？）

釣果はまずまずでしたが、風もなく景色は絶景
& 貴重な体験ということで皆さん終始笑顔で、
満足そうでした。

天候の関係で1日だけのモニター体験会でした
が、R5年度に向けて新たなチャレンジのヒント
をもらえた気がしました。

